

関連項目：教育活動プラン④

## ふれあい活動を通して異年齢でのかかわりを深める

### 目的

児童が異年齢集団による活動を通して、自己を生かしながら、自分の役割を自覚し、責任を果たすことで、自己有用感を高めます。

### 内容

● **ペア学年によるふれあい活動をすすめます。**

1・6年，2・5年，3・4年がペアとなり様々な活動を行っています。年度当初に1年間のペアやペアグループをつくります。上学年がグループで様々な活動を計画・立案し，ふれあい活動を通して互いの絆を深めます。上学年は，下学年を思いやり，小さい子の立場に立って活動します。喜ばれたり，頼りにされたりする中で，喜びや充実感を味わいます。下学年は，優しく接してもらったり，助けってもらったりすることで，安心感や所属感を味わうことができます。

● **春の校外学習が仲間意識を育みます。**

第1回目の活動として，春の校外学習でのふれあい活動やお弁当タイムを楽しみます。ペアグループで自己紹介をしながらのお弁当タイムは，1年間活動をとにするペアのことに詳しく知る初めての機会です。上学年は，下学年のペアが話しやすいよう，しっかりと話す内容を事前に話し合っています。また，ふれあい活動も自分たちのことは後回しにして，下学年が楽しめるものを計画します。下学年のペアの笑顔が自分たちの計画した活動に自信と喜びを与えてくれます。



● **運動会でのふれあい競技がペアグループでの団結心を生みます。**

児童会種目の綱引きも，ペア学年が紅白に分かれて行います。競争遊技もペア学年で行います。上学年は，ペアにいいところを見せようとおおいに張り切ります。下学年も負けじとカー杯競技に取り組みます。勝っても負けても，力を出し切り協力し合ったことで互いに認め合い，深く心と心が結びつきます。他の競技や演技では，ペアの参加しているものを真剣に観覧し，互いに温かい声援を送り合う姿を見ることができました。



● **毎月1回はふれあいタイムを実施し，ふれあいを深めます。**

上学年児童のどの子にも主役として活躍する場を保障するため，大きな行事のときだけでなく，日常的にショート活動を行っています。ドッジボールや長縄跳び，本の読み聞かせや集団作りゲームなど上学年児童の創意工夫によって計画します。児童は，「下学年の人がうれしくなる，楽しくなる活動にしたい。」「下学年の人の気持ちを考えないといけない。」など，相手に寄り添い，よりよい支援ができるようグループで話し合うことが当たり前になります。上学年の児童はどの子も，自分が中心になって活動を行うことで満足感や達成感を味わいます。下学年の児童も相手の気持ちを思う心が育ってきます。こうした感情は，ふれあい活動の場から学級やその他の活動の中でも生かされ，望ましい人間関係づくりができるようになってきました。

### 成果

異学年交流活動を継続的に展開していくことで，児童はさらに多くの友だちとふれあいたいという意識を持つようになります。つまり，自己有用感の高まりにより異学年や同学年の友だちとのかかわりが深まり，共に活動しようとする意欲が向上します。